

平成26年度(2014年度) 特別支援教育に関する研究Ⅱ  
**身体の動きにぎこちなさがある子どもへの理解と指導に関する研究**

—小学校における作業療法士との連携を通して—

研究員 武田 博史

**研究の背景 「身体面の課題」に対する指導方法がわからない**

小学校には「身体の動きのぎこちなさが目立つ」児童生徒が在籍しているが、改善に向けた実態把握や具体的な指導の方法を学級担任が把握できていない現状がある。そこで、有効な実態把握の手段や指導方法を構築していく必要がある。

**目 的 教師が気づき、指導につなげる方法の探求**

児童の「身体の動きのぎこちなさ」などの「身体面の課題」について、作業療法士との連携を通して、その実態把握の方法と有効な指導方法のあり方を探る。

**研究の方法と概要 児童の実態把握を基に「身体面の課題」改善に向けた実践につなげる**

研究対象 小学校知的障害特別支援学級

**1 教員対象の実態把握調査**

教員の意識、指導内容、関係機関との連携の実態を把握する。

**2 対象学級児童の「身体面の課題」の実態把握**

「身体面の課題チェックシート」を作成し、実施することで児童の「身体面の課題」を把握する。実態把握をもとに作成した実践の動画分析、研究協議によって児童の「身体面の課題」の理解を深め、実態把握を充実させる。

**3 生活単元学習「〇〇組、運動会をしよう」の実践**

児童の実態と課題をもとに、動作の基礎となる「姿勢の保持力」「身体のバランス力」「手指の巧緻性」「身体の使い方の工夫」の向上を目指した「身体づくりの実践」に取り組んだ。トランポリン、スクーターボード、タオル相撲の学習に「身体を大きく使い」「楽しみながら」「継続して」活動することを目標に取り組んだ。

**4 作業療法士との連携**

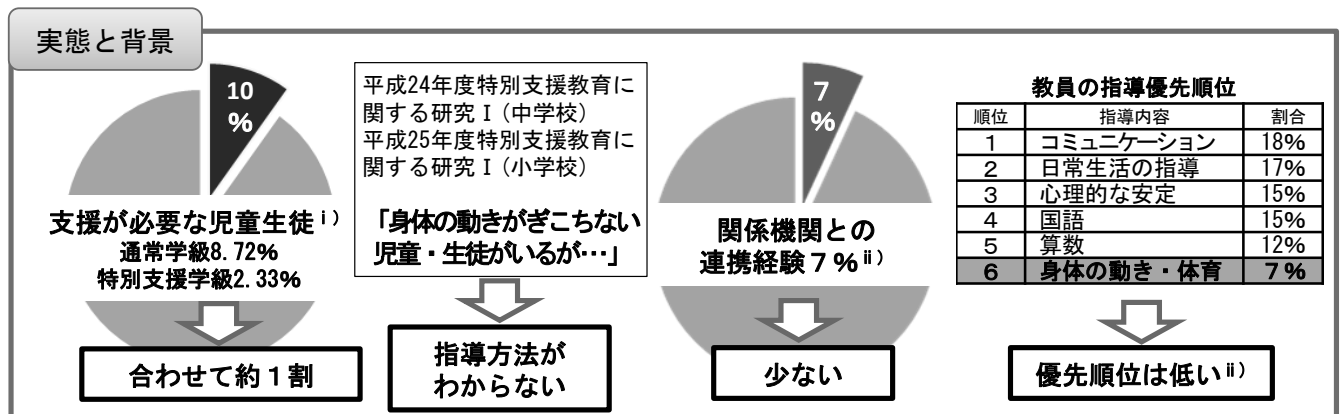
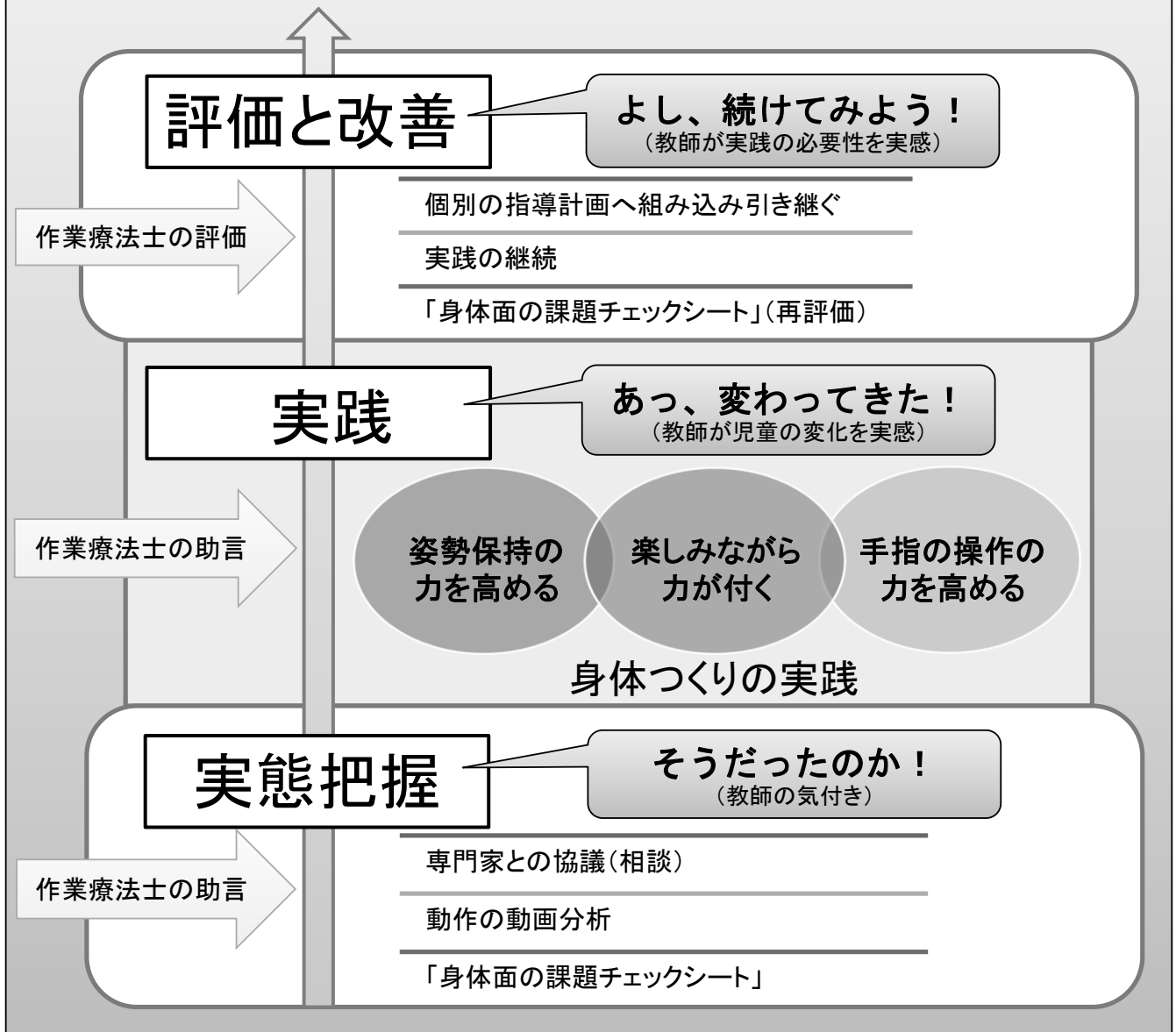
児童の実態把握、有効な指導方法、指導後の評価についての助言を得るなど、作業療法士との連携を図った。

**成 果 「身体面の課題」の改善には実態把握に基づく「身体づくりの実践」が有効**

- ・「身体面の課題チェックシート」は、児童の様子から「身体面の課題」に気付くことにつながり、実態把握の方法として有効である。また、作業療法士から専門的な視点の助言を得ることは、学校では気付きにくかった「身体面の課題」理解の観点が加わり、児童の実態把握や実践を充実させることに有効である。
- ・動作の基礎となる「姿勢の保持力」「身体のバランス力」「手指の巧緻性」「身体の使い方」を向上させる、「身体づくりの実践」に継続して取り組むことが、「身体面の課題」の改善に有効である。

平成26年度(2014年度) 特別支援教育に関する研究Ⅱ 研究構造図

「身体面の課題」の実態把握と「身体づくりの実践」の充実



i) 平成26年、滋賀県教育委員会「滋賀のめざす特別支援教育のあり方懇話会第1回会議 配布資料」内「データから見る本県の特別支援教育の現状」より  
 ii) 本研究で実施した教員対象の実態把握調査結果より